会報 松風

邇摩高ホームページ
http://www.shimanet.ed.jp/nima/

邇摩高Eメール
nima-01@shimanet.ed.jp

発行所
島根県立邇摩高等学校
松風会

〒699-2301
島根県大田市仁摩町仁万907
TEL 0854－88－2220
FAX 0854－88－4417

「体育会系家庭教師」

会長　原　勝正

邇摩高校を卒業される皆様に松風会を代表しまして、御祝い申上げます。

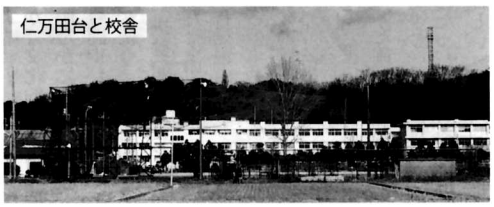
私がかつて北九州で大学生であった頃、高校生の家庭教師をした話をしてみましょう。

体育会系の学生で期間は一年、住み込み、食事付きという条件で大学の学生課長に呼び出された。「知人の子供だが原君ひとつ面倒を見てやってくれんね。」と言って承諾させられた。当時は水泳部のマネジャーをしていて万年床の部室での生活。寮よりも汚くてひどい環境だった。豪勢な家に住んでいる彼は小倉の私立工業高校を「不良」で放校となり、大分県の高校に転校した「いわく付き」。日豊本線の番長だ。体はでかい。眉は無い。額は青く剃り上げた姿は私の常識を越えていた。息子のド迫力に負けて親は小さくなっている。特に父親のリーダーシップが皆無。私はまず生活指導の家庭教師であった。教科書にそって丁寧に教えても学業に興味がない。三ヶ月が過ぎた頃、彼の性格や長所短所が少しずつ分かって来た。「学業の面白さ」を理解してもらおうと思った。番長をやっているぐらいだから集中力はある。とにかく「不良」も「数学」も「英語」も現状から脱却しないといけない。私は色々な方法で彼に接近して行った。そんなある日、彼が急に態度を硬化させて来た。「窮鼠、猫。」である。「原さんチャ、あんたにワシの刀を見せたるバイ。刀はこうやって使こうタイ。」と言って床下から取り出したギラギラした刃渡り五十センチの脇差を持つや否や、「ドーン」と私の胸に体ごと突き当たって来た。私は一瞬、よろめいてめまいがした。「殺られた」と思った。が、その刃は五十センチ私の胸の前で残っていた。すかさず、私は彼の目を見た。彼も私の目を見ていた。私の目の奥の奥まで見ていたような気がした。

「ハッハ。」「ハッ。」「ハッ。」「ハッ。」「ハッハ、ハア。」……。私と彼は大きな声を出して堰を切ったように笑い出した。「やったなぁ。よーし!!。おまえが得意の内股でワシを投げられるか、外に出て勝負をしてみるか!!。」と言って雨の降るなか、二人庭に降りて相撲を取った。泥だらけ、スリ傷もつくったが、彼が初めて私に心を開いてくれた気がした。

性格や性根は、簡単に変えることはできないが、あの後、彼は少しずつではあるが、変わろうとしているようだった。刀は短いのから長いの迄持っていて、床下に隠していた。カバンの中は弁当や教科書の下にチェーンや刀を入れて学校に行っていた。番長の苦労話も随分と聞いてやった。約束の一年は「あっ」という間に過ぎ、後任は部の後輩に任せ私は家を去った。「原さんチャ、ワシはあんたがすごう好きになったバイ。」と言って大男のワルが泣いた。一年後、「福岡の大学に合格した。」という電話があった。

今回、「体育会系の家庭教師」だった頃のあの情熱を卒業される皆さんに贈りながら、幸多かれと御祈り致します。


仁万田台と校舎

邇摩高校の近況報告

校長　景山博恭

邇摩高赴任後三年が経過いたしました。今年度は、昨年度よりも一層学校生活が安定し、生徒諸君も学習や部活動に集中して取り組んでいます。県教委や県外高校PTAの皆さんの学校訪問では、校舎内の管理状況や授業に対する生徒諸君の取り組み状況等をお褒めいただくことが多かったのを喜んでいます。これも職員の一致協力体制による指導と地域・松風会皆様方のご協力の賜と感謝しています。

学校での学習は教科の学習を通して知識技術の向上を図り、実社会へ巣立ったときに役立つように準備をしておくことが大切な目標です。同時に、部活動や学級生活を通して集団の中での人間関係の形成や個人々々の内面的成長を図ることも大切な事項であります。本校職員は、時には厳しく時には優しく生徒を温かい目で指導してくれています。今年度から一年生は三学級となりましたが、生徒観察や指導に関しては、より細目な対応が出来つつあるように思っています。

また、教育の大切な柱として生徒諸君には全校集会等機会ある毎に「他に対する思いやりの大切さ」や「一人一人がそれぞれ違って当たり前であり、違うからこそお互いの存在がある」ということを訴え、互いに尊重することから、いじめなど人権侵害が起こらないような雰囲気作りに努めているつもりです。生徒諸君が思いやりを持って協力し、一人一人がより良い成長をしてくれることを望み、日々職員の皆様と意見交換を図り、協力して学校運営を図る様努力を継続していきたいと考えています。

さて、今年度の部活動の状況を報告させていただきます。

全国大会出場

・全国高校総合文化祭島根大会
　美術工芸の部出展　三年　石川　龍
　企画委員　三年　山口翔子、山内春佳
・全国高校珠算大会　三年　山根加穂
・インターハイ（陸上）三年　永岡　大
・農業クラブ農業鑑定競技優秀賞
　三年　野木哲郎、三年　井上　豊

中国大会出場

・中国高校吹奏楽コンクール銀賞
・中国地区高校弓道選手権　女子団体
・中国地区高校弓道新人大会
　女子団体及び個人
・中国高校柔道選手権大会個人戦
　三年　小原悟史、南　貴裕

島根県内大会の結果（主なもの）

・吹奏楽コンクール小編成部「金賞」
　アンサンブル大会「金賞1・銀賞2」
・県高校総体柔道　小原、南三位
・県高校春季写真展　特選4・入選9
・県高校秋季写真展　特選2・入選6
・文芸コンクール　優良5

進路概況

進路指導部長　多々納　雄二

本年度の卒業予定者は百三十五名（男子四十六名・女子八十九名）で、就職希望者と進学希望者の割合は約四対六で、ここ数年この傾向が続いています。

就職については、新聞報道にもありますように求人状況に回復傾向が見られ、製造業を中心に好況の様相を呈しています。十月末段階で受付済みの求人票数も五百の大台を超え、一昨年度末の三百三十三枚、昨年度末の四百八十六枚に比べて着実に増加しています。少ない年度は二百五十枚にも満たなかったことを思えば、就職を取り巻く環境はいたって良くなっているようにも見えます。しかし、詳細に求人内訳を分析すると、生徒の希望に合致するとは必ずしも言えないのが実情です。いただいている求人票の三十二％が技能生産系、五十六％がサービス系であり、事務・販売・接客等を希望する生徒も多い中、なかなか思うに任せません。また、通勤可能地域もしくは県内への就職希望が七割を占める本校において、県内求人数が頭打ちの現況では生徒の希望にすべて応えることは極めて困難であり、職種や地域の再考を余儀なくされる場合も少なくありません。そこで、進路指導部では、年度当初より例年にも増して企業訪問・求人開拓に努めた結果、県内三十九人（内、大田地域内二十一人）・県外十九人の就職内定をいただくことができました。全国的には高卒内定率が五十％程度と言われる中で、本校生徒はよく健闘してくれたのではないかと喜んでおります。

進学については、久々に国立大学受験者が出るなど、意欲的に受験に向かってくれています。四年制大学八人、短大十三人、高看七人、専修学校四十七人の希望がありますが、推薦入学を中心に合格を勝ち取った者が既に八割以上おり、ここでも健闘が目立ちます。とりわけ難関と言われる高看や大学に果敢に挑み、合格の花を咲かせた喜びの笑顔が随所で見られたのは、指導する側にとっても大きな喜びでした。まだまだ受験戦線は続きますが、晴れの卒業を迎える日までには、数名の就職未定者を含めて全員の進路実現がはかれるものと確信しております。

本年度、よりよい進路指導を目的に、本校独自の「進路の手引き」発行、進路閲覧室の増設、三年生保護者・生徒を一同に会した進路説明会や就職希望者対象の夏季集中補講、外部講師による面接対策講演会の早期実施等に取り組んできました。全ては生徒一人一人の進路実現のため、既成の枠にとらわれず断行してきたつもりですが、まだ多くの難題が山積しています。これからも有為な人材を適所に送り出せるよう研究・工夫を重ね、邇摩高校の伝統を汚さぬよう努力していく所存です。今後ともご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

世界遺産「石見銀山遺跡」の実験公開に参加して

47年卒　邇摩高校教諭　坂根　一則

平成19年7月2日、石見銀山遺跡が世界遺産に登録された。観光バスが1日に60台。温泉津温泉が予約で満室。龍源寺間歩の入場者が10万人を突破。玉造温泉が年内満室状態。仁摩サンドミュージアムの入場者が7万人を超えた。など世界遺産石見銀山の波及効果は「すごい」の一言である。石見銀山について近所や学校で話をすると、たいていの人は「あがなところたいしたことないがな、今だけだで、来年は人が減るがな」と批判めいた大田弁が炸裂する。それも一人や二人ではない。聞く人の約8割が同意見で「たいしたことはない、あがなところ」と言葉が続く。果たしてそうなのであろうか。それを知りたくて、テレビで放映された石見銀山関連ニュースや特集をビデオ録画し何回も見ているうちに「自分の目で確かめたい」と「世界遺産石見銀山を歩く」という本を片手に銀山柵内、銀の積出し港の馬路鞆ケ浦、温泉津沖泊港を訪ねた。その都度感じたことは「間違いなく世界遺産の価値がある」「歴史的な価値は世界遺産の冠をつけてもよい」と一人で納得した。平成19年に石見銀山遺跡を7回探索したので、その6回目に当る大久保間歩、釜屋間歩の実験公開見学の感想を述べたい。

「広報おおだし」に石見銀山遺跡の大久保間歩実験公開の案内が掲載された。平成20年春の一般公開に先駆け大田市民に公開する、定員は20名、応募者多数の場合は抽選で、と紹介された。早速、邇摩高校で希望者を募り6名の教員が11月の公開に参加することになった。邇摩高校で私より1級上の46年卒の大島教頭も「石見銀山について理解を深めたい」と参加された。11月4日朝9時20分、石見銀山世界遺産センター第3駐車場に集合、車に乗合わせ大田3中近くの駐車場まで移動し、仙ノ山登山口に集合した。本谷口番所跡や下金生坑の説明を市役所職員から受け10時丁度にプレハブ小屋に着いた。そこで懐中電灯と長靴・ヘルメットを装着し大久保間歩水抜き坑の金生坑を見学して大久保間歩に到着した。坑内に入ると、いたるところで驚嘆の声が発せられる。「なんだこれは」「わぁーすごい」斜坑や横相坑、竪坑が蟻の巣のように繋がっている。鉱脈に沿って人がひとり入れる穴が掘られ、スケールの大きさに声があがる。足元には、トロッコの枕木が朽ちながらも続いている。「坑道で最盛期には3万人が働いた」「1日に掘った距離は30センチ」「これが鉱脈で坑道は仙ノ山を900メートル貫通している」「左のゴツゴツした部分が江戸時代、右のきれいな掘り跡が明治時代」などの説明により坑道の奥深さが伝わってきた。150メートルの公開坑道を出て、大きな感動をあとに山道を登る。後ろを振返り遠方を見ると三瓶山がきれいだ。カメラをかまえる見学者たち。「江戸時代の人たちもここから三瓶山を見たのだろうか」と胸がしめつけられる。11時に釜屋間歩に到着。安原伝兵衛が発見した間歩で良質の銀が年間13・5トン産出された場所である。その右隣に謎の岩盤遺構がある。石段や製錬の跡などスケールの大きな遺構で威圧感さえ感じた。次に本間歩を目指して山を登る。途中、露頭掘りの大きな岩盤が目に入る。この辺りは、地表面から鉱脈を掘った跡が集中する地帯。「すごい、やはり銀の山だ」と納得する。山道の周囲に平坦な部分が沢山あり、建物の跡であったと説明を受ける。製錬の跡や住居があったものと考えられている。やがて、山頂付近の本間歩に到着。鉱脈を追ってひ押しにより採掘した大きな坑道で、現在坑内は埋められていて残念に思った。息を切らし数分足を進めた。遂に仙ノ山頂上に到着、山頂とは思えないほどの平坦地が広がる。ここが戦国時代末から江戸時代にかけて、石見銀山最盛期の銀の生産と生活の拠点であった石銀（いしがね）遺跡である。屋敷跡の石垣や井戸、そして墓石などが残り、かつて「石銀千軒」とも言われた鉱山都市としての繁栄の姿が残る。整然と区画した屋敷跡から、中国・朝鮮産の陶磁器や下駄、キセル、墓石、香炉などの大量の生活用品が出土し、当時の鉱山住人の生活が豊かで文化的な都市生活を営んでいたことが明らかになった場所である。その場所に1号間歩があり、銀山全体の間歩は600穴以上も続く。1号間歩前で邇摩高校教員メンバーは記念写真を撮った。「ここがスタートだ」とポーズを決めた。12時30分に下山し、石見銀山センター駐車場に向かった。観光客の車やバスの渋滞で駐車場にたどり着けない。石見銀山ブームを肌で感じた瞬間でもある。この大久保間歩実験公開に参加して、世界遺産石見銀山遺跡の冠は間違いないと確信した。同行した教員の感想を載せたい。「ここ30年の日曜日で最高の1日となった」「まさに世界遺産、一度は見て欲しい」「感動した、地

本間歩

露頭掘り

釜屋間歩

大久保間歩

石銀遺跡

清水谷製錬所跡

元の人のみならず、全国の人に見て欲しい遺跡だ」虚偽のない参加教員の生の声である。この実験公開の様子を邇摩高校の文化祭で写真展示し、生徒や地域の皆さんに紹介した。この感動をさらに味わうべく邇摩高校教員の石見銀山見学会第2弾を企画した。11月23日に清水谷製錬所跡や龍源寺間歩、毛利元就ゆかりの豊栄神社、山吹城の登山を行った。私のみならず大島教頭、社会科・商業科の教員等は石見銀山遺跡に完璧にはまってしまった。自然と共生した石見銀山、世界3分の1の銀を産出し南蛮貿易の拠点となった銀山、銀山の争奪戦を行った戦国武将たち、計り知れない歴史の重さと遺跡の数々、どれもこれも素晴らしい。昨年7回の見学により「これぞ世界遺産」と胸を張って言える自分がいる。「あがなところ、何が世界遺産だ、たいしたことないで」そう言う人たちに言いたい。「本当に石見銀山遺跡を理解していますか」時間をかけ歩いて分かる世界遺産、それが石見銀山である。石見銀山を訪れる人に助言したい。2・3日かけてゆっくり歩いて遺跡の価値を実感してください。これが世界遺産石見銀山の維持に繋がると思うからです。松風会の皆様、この素晴らしき世界遺産を全国に発信して大田市の活性化につなげてください。

12月のある新聞朝刊に石見銀山の景観を守るボランティア活動の記事が掲載された。病気にかかった竹を伐採し、元気な竹を保護するという内容であった。その記事の写真に邇摩高校の教員が含まれていた。素晴らしいことで、大変嬉しく思った。まず、大田市民が石見銀山遺跡を正しく理解し、取り巻く環境を守ることが世界遺産石見銀山の維持に繋がると思うからです。松風会の皆様、この素晴らしき世界遺産を全国に発信して大田市の活性化につなげてください。

全国大会に出場して

◆インターハイ

永岡　大

初めての佐賀インターハイは、深く僕の心の中に刻まれました。顧問である矢野先生と二人三脚で取組んできたことを全て出し切るつもりで臨みましたが、結果は満足の行くものではなく非常に悔しい思いをしました。しかし、それまでの過程はとても充実していたと思います。毎日コツコツ積み重ねてきた練習の成果は、各大会での結果や記録以上にこれからの人生の大きな糧となると思います。

◆珠算競技

山根　加穂

今年の千葉県で行われた全国大会が私にとって最初で最後の大きな大会でした。3年生での出場で、県内で出場する人は後輩ばかりですごく不安な面が多く、辞退したいと前日まで思っていました。いざ大会に参加してみると会場の雰囲気や選手の気迫で圧倒され、自分も精一杯やらなければいけないと思わされてしまいました。実力不足により良い結果を残すことはできませんでしたが、悔いはなく出せる力を出しきった成績だったので満足しています。全国大会に出場してすごく勉強にもなり、とてもいい経験になりました。

◆総文祭島根大会

石川　龍

島根県で行われた全国高校総合文化祭美術・工芸部門に参加して、全国の高校生が作った作品を見て、自分の作品が他の高校生達の作品と比べて、今一つ何かが足りないような気がしました。他の高校生には自分の作品にはない色合いや細かさがあり、とても上手に作品が出来ていました。さすがは県代表の作品だと思いました。ただ、自分の作った作品には色合いは無かったが、他のどの作品にも負けない「迫力」があったと思っています。全国から集まった作品の中に自分の作品が入れた事をとても嬉しく思います。この総文祭に参加することが出来てよかったと思います。今後の人生の励みにしたいと考えています。

◆農業クラブ全国大会広島大会

野木　哲郎

農業鑑定競技の島根県大会に向けて勉強するなかで、いろいろと分からなくて苦労することも沢山ありましたが、先生方の指導のもとで楽しく勉強することができました。そして、県大会最優秀賞という素晴らしい賞を取ることができ、10月24日の広島西条農業高校で行われた農業クラブ全国大会に出場しました。今まで勉強してきたことが出れば入賞できると考えていました。結果発表の新聞速報に自分の名前があった時に最高の喜びとなりました。共に勉強した友人と先生方に感謝しています。ありがとうございました。

写真で見る邇摩高生

◆壮行式
6月に壮行式が行われました。各部の部長から、総体に臨むコメントが発表され、応援団の応援と校歌で締めくくりました。

◆球技大会
男子はサッカー、バスケットボール。女子はソフトボール、バレー・バスケットボールなどを行っています。大田高校との対抗戦も健在です。

◆芋掘り
地域交流学習の一環として、園児と芋掘りを行いました。校舎裏の砂山に学校所有の圃場があり、6月の定植と11月の収穫に仁摩町の2保育所から園児が来校し、生徒会長あいさつ後、芋掘りを行いました。大きなはしゃぎ声があちらこちらで聞こえ、収量以上の収穫がありました。

◆仁摩町と校舎
秋晴れの日に校舎南側山の手から撮影しました。昔と変らない風景で心がなごみいわし雲が季節を感じました。

◆ロードレース
男子10キロ、女子7キロ、大国地区が折返し地点で行われました。例年より石見銀山に向かう県外車が目立った大会でした。

◆文化祭
本年の文化祭は、世界遺産をテーマに石見銀山遺跡の展示や世界各地の世界遺産について展示し、新聞にも取組みが掲載されました。体育館では、生活・福祉系列の生徒が授業や放課後を利用して製作した衣装を着てファッションショーが行われました。

◆ケーキコンテスト
恒例のケーキコンテストが12月に行われました。参加チーム16、参加生徒数75名でした。最優秀賞、味賞、デコレーション賞、技能賞、一般審査員賞を目指し腕が振るわれました。写真は最優秀賞の作品です。本年はレベルが高く選考に苦労しました。

◆伝統の弓道部
全国制覇3回の弓道部の練習を覗いてみました。「しゃあ」の声が響いて良い雰囲気が漂っていました。近年は部員不足が深刻な問題です。

◆体育祭
本校の体育祭は盛大です。夏休み返上で盆明けから準備し、9月の本番を迎えました。入場行進、衣装、デコレーション、競技、応援合戦、陣地応援のすべてが表彰対象です。また、園児も参加する体育祭、観客の多い体育祭として地域に根ざしています。

◆1日体験入学
10月に中学3年生を対象に1日体験入学が実施されました。写真は植物バイオテクノロジーの無菌は種実験のようすです。

◆農業視察
地域・環境資源系列の生徒が農業大学校やブドウ栽培農家、林業経営農家を視察しました。写真は、波根の農業大学校です。

◆対面式
新入生と在校生の対面式で吹奏楽部が演奏しました。金賞を数年間獲得した実力は素晴らしいです。部員数が減っています。ご子息の入部を希望します。

支部だより

関東支部

平成19年度　松風会関東支部総会

支部長（34年卒）林　皓平

平成19年5月20日関東支部総会を、本部より原 勝正会長、景山校長、特別参加として藤山 勉県議、元教諭の有馬 侃画伯のご出席をいただき57名の参加の下開催した。

まず、「未来に引き継ぐ石見銀山」と題して大田市教育委員会から大国晴雄氏をお招きしてご講演いただいた。

色々な経緯の中で、「文化庁がユネスコへ世界遺産登録に推薦している我が石見銀山遺跡は、今年7月の選考委員会では先送りに成りそうだ」との、講演の中での推測であったが、7月2日もののみごとに、大逆転満塁ホームラン的に登録されたのはご承知の通りであります。

懇親会は、57名の参加者が先輩後輩関係なく、長い人生経験を踏まえ成功話、苦労話に華をそえ、ビンゴゲーム、カラオケと、楽しい一日を過ごした後、参加者の半数近くがあらためて予約のしてあった二次会会場へと散って行きました。

今年は、毎年苦労している予算に関し、賛否両論は覚悟して幹事役全員の総意により会員全員に案内状と同時に郵便振替による賛助金のお願いをすることと致しました。その結果、85名の協賛を賜り心から感謝したところであります。

今後共、この関東支部は、このかたがたの愛しく思う愛校精神を無にすることの無いように母校の為に、会員全員が一枚岩となって盛り上げていくことを誓いたいものです。

次回もまた、大成功裏に終わることを祈念しております。

関西支部

松風会に新しい風を

河合　弘子

私が、松風会に関わりを持つきっかけとなったのは、創立百周年に向けての準備段階においてである。

そもそも卒業時に、入会していた事すら、恥ずかしい事に、四十年以上たって、記憶にすらなかった。子育てと、仕事に追われる毎日、帰郷する日数も僅か、母校を訪れる事すら皆無であった。

私が平成七年十月、交通事故で一年二ヶ月の入院の後退職し、再就職を、あきらめ、ストレスの毎日から脱出しこれからの人生を前向きに生きる事を目標とし、高校の時、矢富先生の指導で、数ヶ月自動車クラブに在籍したが父に反対され、止むなく退部した悔しい思いを、先ず実現するため、車の免許証を取得した。（交通の便の悪い所に住んでいるため）…それから今まで出来なかった、趣味の世界にやりがいを見つけ、家族の理解も得て、毎日がやっと、充実しかけた頃である。

だからあのまま仕事を続けていたら、おそらく、準備委員のお誘いも、引き受けていなかったと思う。

何の予備知識もないまま、渡辺前支部長の、熱意に動かされて、元来の世話好きの虫が動き出し、せめて三十七年度卒でもと同級生と話し合い、総出席者数百名を目標に、案内状を発送した後、世話人全員で電話による連絡も熱心に取り組んだ。

まずまずの成果を出せた事に、ホッとした。

しかし、その後も関西支部総会出席者は減少しつつあるのだ。昨年のアンケートにもあるように少子化も進み、関西に就職する卒業生が皆無に近いと言うのも理由のひとつであろうが、学年によって、横の繋がりが殆どないという事も、原因のひとつの様な気がする。

開催場所や総会の後の第二部を、どの様に有意義なものにするか…等々、考える事は山積みされている。

案内状も色々な方法で選択して発送を試みている現状である。

卒業生の皆様、今一度懐しい友人、先輩達、又先生と、学生時代に戻って楽しい一時を過ごしませんか。

胸を張って校歌を唄いましょう。

新しい世話人の新しい知恵を、期待しています。

松風会に、ぜひ新しい風を…

平成20年度松風会予算（案）

（平成20年1月1日～12月31日）

1．一般会計

収入の部

科目	本年度予算額	前年度予算額	増減	備考
入会金	402,000	375,000	27,000	3,000円×134人
会費	26,800	25,000	1,800	200円×134人
寄付金	5,000	5,000	0	
繰越金	130,617	182,757	△52,140	平成19年度から
雑収入	583	243	140	預金利息等
計	565,000	588,000	△23,000	

支出の部

科目	本年度予算額	前年度予算額	増減	備考
会議費	12,000	15,000	△3,000	役員会
財団法人松風会補助	70,000	70,000	0	(財)松風会へ
旅費	220,000	220,000	0	支部総会（関東、関西）2名分　他
支部育成費	110,000	110,000	0	関東・関西・地元（松江・大田・仁摩・温泉津・江津）
事務費	50,000	70,000	△20,000	卒業記念品・新聞広告料・通信費他
会館管理補助	100,000	100,000	0	会館維持管理費
予備費	3,000	3,000	0	
計	565,000	588,000	△23,000	

平成19年度松風会決算報告

（平成19年1月1日～12月31日）

1．一般会計

収入の部

科目	本年度予算額	決算額	差引額	備考
入会金	375,000	375,000	0	3,000円×125人
会費	25,000	25,000	0	200円×125人
寄付金	5,000	0	5,000	
繰越金	182,757	182,757	0	平成18年度より
雑収入	243	50,352	50,109	預金利息102円、250円　パーティ券売上益金50,000円
計	588,000	633,109	45,109	

支出の部

科目	本年度予算額	決算額	差引額	備考
会議費	15,000	2,400	12,600	役員会
財団法人松風会補助	70,000	70,000	0	(財)松風会会計へ
旅費	220,000	160,380	59,620	関東、関西支部総会
支部育成費	110,000	110,000	0	関東・関西・地元（松江・大田・仁摩・温泉津・江津）
事務費	70,000	59,712	10,288	卒業記念品・新聞広告料・通信費他
会館管理補助	100,000	100,000	0	会館維持管理費
予備費	3,000	0	3,000	
計	588,000	502,492	85,508	

収入総額　633,109円－支出総額　502,492円＝差引残高130,617円（平成20年度会計へ繰越し）

平成19年度松風会年会費会計報告

（平成19年2月26日～平成19年12月31日）

収入の部

科目	決算額	備考
会費	1,537,000	763件、納入率7.0%
繰越金	549,023	平成18年会費繰越
計	2,086,023	

支出の部

科目	決算額	備考
会報発行費	1,400,602	会報松風38号、10,850部
振込手数料	73,760	貯金局会費振込手数料
計	1,474,362	

収入総額2,086,023円－支出総額1,474,362円＝差引残高611,661円
平成20年度へ繰越しとします

平成19年12月28日
松風会監査　内田健志　長谷豊

事務局からの連絡　会報40号は、邇摩高校ホームページでご覧ください。　http://www.shimanet.ed.jp/nima/